

者の地位は、斯して福音書の時代から、早くも認められて居つたのである。(九)

◎一般の弟子達は、マリヤの證言を聞いても、二人の弟子の物語を耳にしても、容易に主の復活を信じないで居ると。耶蘇は十一人が寄つて食事をする所に現れ、己が甦りたることを示し、かつ彼等の信仰なきと、其の心の頑固なることを責め給ふた。主の復活の事實に就いて、トマス、アーノルドは言ふた、『私は多年歴史を研究し、又史料の調査に従事して居れど、未だ曾て耶蘇の死及び復活に關する位、眞實なる研究者を満足せしむべき、純眞豊富なる證據を有する事蹟を知らない』と。ウールセイも亦言ふた、『夢幻を根據とした信仰の上には、夢幻くらの生ずることはあらんも、到底世界歴史上、最大の事實、又最強の制度なる、基督教會の如きものを産出すことは出来ない』と。つまり今日、基督教會の存在其のものが、耶蘇の死より甦り給ふた事實の、何よりの證據だといふ意味であらう。(二〇一—四)

◎耶蘇は仰せられた、『全世界を巡りて、凡ての造られし者(即ち人類)に福音を傳へよ。信じてバプテマスを受くる者(即ち耶蘇を告白する者)は救はるべし。されど信ぜぬ者は罪

に定めらるべし』と。これは彼が其の當時のみならず、後世の、凡て彼の部下に屬する軍人に授け給ふた進軍令である。昔モラヴィアン派の人々は『殺されたる羔の爲に、其の受難の報酬を獲得せよ』といふ標語の下に、熱烈なる傳道を試み。ジョン、ウエスレーは又『世界は我が教區なり』と叫んで、盛に諸國諸民に福音を宣傳した。其のごとく私共もまた、世界人類の救を終局の目的として、不斷の健闘を續けねばならぬ。(二五—一八)

◎『弟子達出で、徧く福音を宣傳へ、主も亦共に働き、伴ふ所の徴を以て、御言を確らし給へり』とあり。靈魂の救と、天國の建設とは、人間の努力と共に、又神の御力なしには、出来ぬ事業である。即ち唯神と人との協力によりてのみ、成就せらるべき運動である。去明治四十二年、著者が英國を去りて日本に歸朝せんとする前日、ブリス大將(ウイリアム)と最後の會見を遂げた際、彼は私に告げて言ふた、『御身は日本に歸りたる後、何の能力によりて其の國民を濟度せんとするか。私は言ふ、唯超自然の力!即ち大能至愛の神の御力によりてのみ、能く日本と其の人民とを救ふこと

が出来てあらう』と。これは私が彼から直接に聞いた、最後の言であつた。今思ひ出すまゝに附け加へて、『民衆の聖書マルコ傳福音書』の筆を擱くのである。(一九二〇)

民衆のマルコ傳福音書終

(會員番號第二一四〇六二號)

大正十一年十一月十五日
大正十一年十一月二十日
昭和十七年九月十七日
印刷發行
十一版發行

不許
複製

編者 山室軍平

發行者 渡邊林太郎

印刷者 (東京三〇) 龜谷良一

印刷所 日東印刷株式會社

東京市芝區南佐久間町二丁目二番地

善隣出版供給部

振替東京一五六四五六番

東京市神田區淡路町二丁目九番地

日本出版配給株式會社

發行所
配給元

定價金五十錢

終

